

2023年度 事業報告書

社会福祉法人 千鳥会



目 次

法人本部	・・・・・・・・・・・・・・・・	4～8
千鳥会ゴールド拠点	・・・・・・・・・・・・・・・・	8～9
特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド		
津名デイサービスセンター		
高齢者住宅等安心確保事業		
ゆうらぎ拠点・北淡荘	・・・・・・・・・・・・・・・・	9～11
特別養護老人ホームゆうらぎ		
ゆうらぎデイサービスセンター		
ゆうらぎ訪問介護ステーション		
養護老人ホーム 北淡荘		
ほほえみ拠点	・・・・・・・・・・・・・・・・	11～13
地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ		
千鳥会デイサービスセンターほほえみ		
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ		
LEVN	・・・・・・・・・・・・・・・・	13～15
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり		
千鳥会居宅介護支援事業所		
千鳥会在宅介護支援センター		
家族介護教室・家族介護者交流事業		
ちびっこランドぬくもり		
グループホームRAVIE		
グループホーム しおさい	・・・・・・・・・・・・・・・・	15～16
しおさいデイサービスセンター		
佐野デイサービスセンター	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
ちびっこランド ちどり	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
千鳥会福祉用具貸与事業所	・・・・・・・・・・・・・・・・	16

2023 年度 法人本部 事業報告書

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	2023年6月5日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2022年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2022階年度 社会福祉法人千鳥会 第二次補正予算の件 ③ 2022年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ④ 2022年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ⑤ 社会福祉充実残高の算定について ⑥ 役員選任候補者 ⑦ 定時評議員会開催・議題について	なし	宮尾慶子 樽野敏朗
評議員会	2023年6月19日	千鳥会 法人本部	7/8	① 2022年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2022年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ③ 2022年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ④ 社会福祉充実残高の算定について ⑤ 次期役員選任の件	仲野和美	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2023年6月19日	千鳥会 法人本部	6/6	① 新理事長・業務執行理事選任の件	なし	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2023年12月18日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2023年度 社会福祉法人千鳥会 第一回補正予算案の件	なし	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2024年3月25日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2023年度社会福祉法人千鳥会 事業計画の件 ② 2023年度社会福祉法人千鳥会 予算の件 ③ RAVIE(障害者施設)増床の件 ④ 評議員候補者推薦の件	なし	樽野敏朗 仲野廣巳

2. 施設整備事業

2023年4月1日開設

◎ 小規模多機能型居宅介護事業所 むくもり跡地 ⇒ 障害者施設 グループホーム RAVIE

3. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし				

4. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目/実施場所	参加人数
職員福利厚生事業	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員親睦会(各事業所)	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		

職員健康診断 (前期・後期)	2023年7月	ほほえみ・ちびっこランドちどり	65名
	2023年7月～8月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	101名
	2023年8月	ゆうらぎ・北淡荘・本部	89名
	2024年1月	ほほえみ	21名
	2024年1月	ゴールド・しおさい・LEVN	33名
	2024年3月	ゆうらぎ・北淡荘	34名
職員腰痛検査 (前期・後期)	2023年7月	ほほえみ	42名
	2023年8月	ゆうらぎ・北淡荘	72名
	2023年9月～10月	ゴールド・しおさい・LEVN・佐野デイ	74名
	2024年1月	ほほえみ	39名
	2024年3月	ゆうらぎ・北淡荘	73名
	2024年3月	ゴールド・しおさい・LEVN・佐野デイ	80名
インフルエンザ 予防接種	2023年10月～11月	全事業所	233名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

5. 入社式(入職者)・退職者

入社式	新入職員数
2023年4月3日	3名
2023年6月1日	1名
2023年8月1日	5名
2023年12月1日	3名
2024年2月1日	8名
合計	20名

月	退職職員数
4月	1名
5月	2名
6月	4名
7月	4名
8月	0名
9月	2名
10月	2名
11月	0名
12月	3名
1月	0名
2月	3名
3月	7名
合計	28名

6. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	1名
育児休業	1名
短時間勤務	1名

7. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	1件
自己啓発支援	報奨金	実務者研修修了	1件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉士	1件
自己啓発支援	報奨金	調理師	1件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	LEVN	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○						
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続けるためには介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要であることから、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 (委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○						
地域サポート型施設 (兵庫LSA又見守り活動)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの（公的制度の給付対象となっていないもの）

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	LEVN	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	○
職場体験 (トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	○
祭り地域交流 (春・夏・秋)	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。	○	○	○	○		○	
各種ボランティア(慰問等) の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○			○	
訪問サービス (介護保険外事業)	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○		○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサ	○						

	ービス実施							
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託（無料）を受けて受講者にも無料で実施。	○		○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○			○	
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。						○	○
デイサービス（夕食サービス）	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。			○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。	○	○	○	○	○	○	○
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○		○				
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○				
日本財団自動販売機設置	飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○				
寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○						
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○		○				
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○						

8. 情報公表サービス受審

■ サービス評価（淡路市提出日）

しおさい しおさいデイ	2024年4月2日
小規模ぬくもり	2024年3月21日
小規模ほほえみ	2024年2月23日

■ 指導監査

北淡荘	2023年8月3日
ちびっこランドぬくもり	2023年9月12日
ちびっこランドちどり	2023年9月13日

9. 総括

新型コロナウイルス感染症については2023年5月に2類感染症から5類感染症に位置づけられましたが、依然として感染症が確認され、季節性インフルエンザとの同時流行などもあり、感染拡大防止対策への対応に苦慮しながらの厳しい事業運営の1年でした。

その中で、電気代・ガス代等の光熱費や利用者の給食材料、おむつ代等の価格高騰が続き、事業所負担も増額となり、今後もあらゆる物・人件費の高騰が予測され、事業所の経営努力だけでは対応が困難な状況下にあります。

2024年度から介護報酬の改定率を全体で1.59%のプラス改定とする方向となり、介護保険制度施行以来、2番目に高い引き上げ率で、診療報酬との同時改定では初めて診療報酬の改定率0.88%増を上回りました。

また、現在は3つある介護職員の処遇改善のための加算を1本化することによる加算率の上昇効果で0.30%の増、施設の光熱水費の

利用者負担増で0.15%増の効果を見込み、合するとプラス2.04%相当の改定となるとしています。

基本報酬は特別養護老人ホーム・通所介護などが増額となる一方、訪問介護などのサービスは減額となります。

障害福祉サービス等報酬の改定率は、1.12%のプラス改定となる見込みで、さらに、処遇改善加算の一本化により、0.40%増の効果があり、合せてプラス1.52%相当の改定となる予定です。

今後も自立支援・重度化防止を重視した、質の高い福祉サービスと安定した運営が提供できるように進めていきます。

介護人材確保の状況も厳しく、特に新卒の反応が悪くなるなど応募者の就職活動停滞が実感されています。新型コロナウイルス感染症による離職はいませんが、それだけエッセンシャルワーカーとしての意識を持ち日々の業務にあたっており、こうした介護従事者への専門性を評価する観点からも、法人のホームページへのアクセスの強化を図り、ICTを活用した求人活動などの強化を継続していきます。

介護現場において生産性の向上が喫緊の課題となっており、各事業所においても介護業務の負担を軽減するため、介護ロボットや見守り機器の導入、インカムの活用など介護のDX化が進みつつあります。これら介護ロボット・ICTの有効活用を更に図ってまいります。

また、2022年度は旧津名図書館を活用し、LEVNを拠点とし小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり・千鳥会在宅介護支援センター(居宅介護支援事業所)の移転、地域型保育所を新設し、2023年4月には障害事業LAVIEを開設し、サービスの質を確保しつつ効率的なサービスを目指し、高齢者・保育・障害事業となりました。

令和5年度中の策定が義務化されている感染症や災害発生時の業務改善にむけた(BCP計画)を策定し、各事業所が訓練や研修会等を定期的に実施し、より実効性の高いBCP計画を策定し、利用者に必要なサービスを安定的・継続的に提供される体制の構築を進めて参りました。

千鳥会ゴールド拠点

2023年度 特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド 事業報告書

1. 総括

職員の退職・体調不良の影響により人材が不足し厳しい運営状況になりましたが、業務内容の見直し、業務体制の見直しを行ったことにより、少人数で業務出来る体制ができました。しかし、職員数が減ったことにより、入所利用種人数を抑えることとなってしまう、稼働率は月平均82.6%（長期+短期：61名）になりました。感染症発生については、新型コロナウイルスに感染したご利用者が3/22に確認され、隔離対応を実施しましたが、多床室ということもあり完全隔離が難しく、利用者14名・職員2名まで感染が拡大してしまい、終息するまで約3週間の期間を要しました。

新型コロナウイルスが5類に移行後は感染対応の見直しを行い、対面面会の開始、行事の開催等を通じて、ご利用者が楽しみ安心・安全に生活ができるよう支援することができました。また、事業所内の取り組みやご利用者の様子をSNSを活用し、地域やご家族に積極的に発信することができました。現在、特養では全国的に待機者も減ってきていますが、千鳥会ゴールドでは、長期入所の待機者が83名、2023年度も38名の申し込みがあり、多床室は収益的にも厳しいですが、多床室の良さを出し、選ばれる施設として取り組んでいきたいと思っております。

来年度への課題及び展望

2024年度は、介護報酬の改定があり、新たな加算取得を目指し、収益の確保、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症の対応などの訓練・教育を行い、安心、安全な運営に努めてまいりたいと思っております。又、選ばれる施設として感染対策しながら、徐々に日常の生活を取り戻し、ご利用者に満足していただけるよう取り組んでまいります。

2023年度 津名デイサービスセンター 事業報告書

1. 総括

2023年度の稼働率の平均は74.6%（前年度比較：+4%）。延べ利用者数9655人（+767人）。新規利用者数38名（+4名）となっており、利用者、収益確保ができました。職員の退職、異動もありましたが、業務改善（iPad活用による記録時間の短縮、レクレーションの導入など）、業務分担、業務内容の見直しを行ったことで、サービスの質を低下させることなく、選ばれるデイサービスとしてサービスの維持ができました。事故、アクシデント等については迅速に対応することで、大きなクレームや事故に繋がることもなく対処ができ、感染予防対策を継続して行ったことで、安心、安全に利用して頂くことができました。外部との連携では、淡路市通所連絡会への参加、地域との交流（津名高校文化祭参加、コロコロアートコンテストへの出展）を行い、事業所内の取り組みやご利用者の様子をSNSを活用し、地域やご家族に積極的に発信することができました。

来年度への課題及び展望

2024年度は、介護報酬の改定があり、新たな加算取得を目指し、収益の確保、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症の対応などの訓練・教育を行い、安心、安全な運営に努めてまいりたいと思っております。

又、選ばれる施設として感染対策しながら、徐々に日常の生活を取り戻し、ご利用者に満足していただけるよう取り組んでまいります。

2023 年度 高齢者住宅等安心確保事業 事業報告書

1. 総括

住宅に定期的な訪問を週 1 回行う。独居者で体調不良等の訴え時には、水分補給を促し、受診を勧め、湿布を貼るなどで不安を取り除けるように臨機応変に対応した。全体的に単身者が多く、その中で介護認定が必要な方には、家族と連携し介護認定の申請手続きを行い各サービスに繋ぐなど、他機関と情報共有や連携を行う。また介護サービスが必要とする時も、行政と連携し住み慣れた自宅で生活が続けられるように支援した。

訪問、電話等での情報収集、状況把握の中で、抱えている問題への気づきや対応、対策が今まで以上に求められてきている。今後も入居者宅への定期的な訪問で安否確認を行い、さまざまな問題について関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所等と情報を共有し連携を行い、自立した日常生活が送れるように努めたい。

来年度への課題及び展望

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者の QOL の維持、向上に努めたい。

ゆうらぎ拠点・北淡荘

2023 年度 特別養護老人ホームゆうらぎ 事業報告書

1. 総括

ゆうらぎでは、転倒等の事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を活用しています。統計によるアセスメントの他、予防対策にも力を入れており、月平均 4 件以上の予防処置を立案し対応を行っていますが認知症入居者への対応増加や人員不足による見守り時間の減少等により 2023 年度について、骨折や医療機関への受診が必要な重大事故が 4 件発生しています。継続したリスクマネジメントを行い同じ事故を繰り返さないように、事故防止に力を入れていきたいと思えます。2023 年度は、5 月 8 日より新型コロナウイルスの感染法上の分類が第 5 類に変更となり、社会全体として制限の緩和を行う流れとなり、ゆうらぎとしても対面面会の拡大等に取り組むところがありますが、9 月、12 月の 2 回、施設内コロナ感染発生により面会休止を余儀なくされる場面もありました。高齢者施設においては、まだまだ安心できる状況にはありませんが今後も感染リスクを勘案しながら対面面会による利用者様、家族様の喜びを提供できるよう模索していきたいと思えます。

施設利用状況について 2022 年度末での総稼働率 88.7%と厳しいスタートではありましたが、多くの利用者様、家族様、居宅介護支援事業者様、医療機関様のご理解、ご協力により、2024 年 2 月末までの年度間平均総稼働率 95%と大きく向上しています。ただコロナ等の感染症や職員不足の深刻化による受け入れ縮小等も検討せざるを得ない状況にあり、その対応により施設運営も大きく左右される可能性も今後予想されます。そのような厳しい状況にありますが利用頂いている利用者様や家族様にご迷惑をかけることがないよう、ゆうらぎ全体として精一杯取り組みたいと思えます。

来年度への課題及び展望

来年度について感染症の動向や慢性的な介護職員不足により施設運営も大きく左右される可能性が高いですが、利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思えます。利用実績については、2022 年度は平均総稼働率 88.3%とゆうらぎ開設史上最低の稼働率となり施設運営を継続するにあたり厳しい数値ではありましたが、2023 年度については地域のニーズを確認しながら積極的な受け入れを行った結果、平均総稼働率は 95%近くまで改善しています。これも地域の居宅介護支援事業所様や医療機関様のご理解、ご協力があったからこそと思えます。来年度についても、その感謝の気持ちを忘れず信頼される施設を目指し、細やかな連絡調整、利用様の受け入れに取り組みたいと思えます。最後になりますが、2024 年度は介護報酬改定となり、BCP 事業計画等も義務化され、介護報酬を算定していくにあたり、マニュアル作成、確実な会議や勉強会、訓練の実施等の根拠が求められます。ゆうらぎ全体として計画的に勉強会等の教育訓練に取り組み、義務化された項目について確実に実施することにより、サービスの維持、向上に繋げることができるよう取り組みたいと思えます。

2023 年度 ゆうらぎデイサービスセンター 事業報告書

1. 総括

デイサービスでは稼働率向上を最大の目標とし、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指し、利用者に満足して頂けるよう職員個々が知恵を出し合い、常に新しい行事・レクリエーションを企画・実施し、日々変化のあるデイサービスを目指し頑張っており取り組んでいます。

2023 年 4 月は新規利用者・利用回数増回の方が多数おられ、稼働率は前年度を大きく上回る事ができていました。しかし入院や施設入所の方が増えつつあったり、また台風接近のため臨時休業日があったり、8 月最終週にはコロナ感染者が急増し、外部利用者がお休みされたり、入院等で長期間休まれたり、特定の利用自粛があったり、そしてまた 12 月中頃から 1 月中頃まで特定でコロナ感染があり利用が中止となったりと、稼働率が大きく落ち込んでしまいました。日頃からの感染対策と予防を徹底し、利用者・家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ事につとめていきます。利用者の高齢化に伴い、体調不良で入院されたり、独居が難しくなり施設入所されたりする方がこれからも増えていくと思えますが、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指すため、たくさんの喜びの声を頂くと共に、楽しく過ごす様子を SNS にて発信していくことで、選ばれる施設になれるよう職員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思

ます。

来年度への課題及び展望

デイサービスでは、利用者の「自立支援・重度化防止」を軸足に置いた介護を基本とし、利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来る様サポートと、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担を軽減するなどの役割もしっかりと担っていただける様関係事業所と密に連携をとり運営していきたいと思ひます。レクリエーションの充実を図ることで、体を動かすゲームや作品作りなどで刺激のある生活を送り QOL(生活の質)の向上により認知症予防に繋げたり、筋力を強めることで寝たきり予防をすることに繋げていきます。利用者・家族の個々の要望を聞くことにより、満足度UPに繋がり、稼働率向上、また利用数増回に向けていきたいと思ひます。

様々な感染対策を徹底し安心・安全な環境を提供する事、職員研修・BCP 事業計画の充実を図り、稼働率向上に職員一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。

2023 年度ゆうらぎ訪問介護ステーション 事業報告書

1. 総括

利用者に満足されるようサービス内容の充実・見直し、信頼関係を築くことに頑張ってきました。職員一同初心に帰り新たな気付き、勉強会等で学んだことを活かし視点を変えての取り組みを実施してきました。普段何気ない当たり前の介護の中でそれが当たり前ではなくご利用者や家族からの声にも目を向け対応してきました。その中で喜びの声もたくさんありました。「また来てほしい」「訪問介護員（ヘルパーさん）の顔を見ると安心する。元気が出た」「来るのを楽しみにしています」「誕生日カード嬉しい」と取り組むことに対する嬉しい言葉も頂きました。家族様よりサービス記録表に「いつも細かな対応ありがとうございます」「とてもよく動けるようになってきて家族で喜んでます」等のコメントや嬉しいお言葉をいただくことも増えサービスの向上に繋がっているのではないかと感じます。中には訪問回数を増やしてほしいとの希望も多々あります。この信頼関係は直ぐにできるものでもないし、日にちをかけるものでもないですが、私たち訪問介護員にとって何よりありがたいお言葉でした。訪問介護員の日々の積み重ねと思ひたいです。一方で、アンケートではやや満足と行った結果もありました。日々の取り組みの中で話し合い都度対応し 2023 年度は特に大きな問題、クレーム等もなく過ごしてまいりましたがアンケート結果でさらなる訪問介護員のサービス見直し、技術の統一を心がけ更なるサービスの提供を目指そうと実感しました。

どの事業所でも同じですが、五類になってはいますが未だに落ち着いた感染対策にも気を使ってきました。感染ゼロを目標でしたが感染拡大や訪問介護員が運ぶこともなく過ごすことが出来ました。今後もしっかりと感染対策を行い取り組み継続していきたいと思ひます。

勉強会についても職員一人一人新たな気付きや振り替えることによりより一層知識も向上したかと思ひます。今後の課題としてはBCP（事業継続計画）については、何かをもう一度学びなおして事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、どうしたらいいのか訪問独自のBCPはどうしたらいいのか取り組んでいけたらと考えています。利用者数は、施設に入居する方や入院が長引く方が多いなかで終了する方もありまた、新規利用者も少しずつ増えました。新規依頼もたくさんありお受けできないことも多々ありました。

来年度も、訪問介護の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきます。事業所の情報発信（ヘルパーだより）も目標に上げていきましたが取り組み中のままなので実現出来たらと思ひています

来年度への課題及び展望

来年度は、感染対策は引き続き気を緩めることなく継続し災害や、感染症の発生時、サービスが継続できるように、BCPについて学び、訪問独自のBCP 業務計画書の作成を検討し、災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、どうしたらいいのか取り組んでいけたらと考えています。勉強会、研修についても接遇及び、アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整え、また、介護保険、法令遵守、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の勉強会の実施を行い、訪問介護員としての倫理観を身につけ、意識の向上を目指していきたいと思ひます。

ご利用者のアセスメントをしっかりと取り、ニーズを把握し、対応。可能性の実現を目指し生活の質の向上を考えてプランを実施し、ご家庭で安心して在宅生活を送れるよう、危険な箇所やヒヤッとしたことがあれば予防処置を立案し事故を未然に防止できればと思ひます。ご利用者一人ひとりに合ったサービスの提供、環境を含み考えサービスを実施し稼働率の向上も目指していきたいと思ひます。昨年度事業所の情報発信（ヘルパーだより）も目標に上げていきましたが取り組み中のままなので完成しヘルパー事業所の情報発信も行いたいと思ひます。

2023 年度 養護老人ホーム北淡荘 事業報告書

1. 総括

2023 年度は、北淡荘稼働率向上を最大目標とし、この1年間通して職員一丸となり活動してきました。2023 年2月稼働率82.7%からスタートした年度初めでしたが、2024 年2月には86.9%まで引き上げる事が出来ました。2023 年度、新規入所者数25名、退所者数14名。ひとつの目標として、自主退所者ゼロを目指す事を掲げ、今年度では自主退所者ゼロを達成する事が出来ました。理由として、コロナ5類移行による、規制緩和。利用者の自由の幅も広がり、施設生活を以前より充実出来た事が挙げられます。また職員も目標達成に向けて、利用者の要望・不満を以前より増して親身に聞き取り、出来る限り叶えていけた結果だと思ひます。

2023 年12月北淡荘2階利用者でコロナウイルス感染を確認。瞬く間に感染が広がり、累計感染者数2階利用者45名、職員7名という集団感染が発生しました。2024 年3月には北淡荘3階利用者でコロナウイルス感染確認。累計感染者数3階利用者33名、職員1

名感染しました。

2022年に発生したクラスターの経験を活かしつつも多くの感染者を出す結果となってしまいました。幸い、今回の感染により死亡者、重症化される事無く終息する事となりました。未だコロナに対する経口治療薬や予防投与がない以上、今後も起こりえる可能性が十分にあります。

現在はワクチンに頼らざるを得ない状況にありますが、日頃からの感染対策・予防を徹底し、集団感染を発生させないよう留意しながら利用者の生活を守っていきたいと思います。

来年度への課題及び展望

来年度の課題は、前年度に引き続き稼働率の向上を目指し、入所者確保に向け活動していきたいと思っています。前年度新規入所者数は計28名、内神戸市からの入所者はわずか3名となっております。要因として、措置控えが考えられます。今後神戸市からの依頼が増えるとは思えない状況にあり、施設の稼働率向上・地域共生社会の実現に向けて、関係機関と密に連携を取り新規入所者を確保し、養護老人ホームとして高齢者を守る役割を果たしていきたいと思います。

支援員が慢性的な人員不足に陥っています。職員を確保し、サービスの質を落とさず、利用者の安全を確保し、今後も継続してサービスを提供していきたいと思います。

ほほえみ拠点

2023年度 地域密着型特別養護老人ホームほほえみ 事業報告書

1. 総括

開設から12年が経ち、2023年度は

- ① 職員への教育訓練、内部研修の充実と外部研修への積極的な参加を行う。
 - ② 感染予防の継続と感染対策の徹底を図る。
 - ③ 重大アクシデントを前年度より減らす。
 - ④ 介護ロボットの導入を行う。
 - ⑤ 利用者、家族の満足度を高める。
 - ⑥ 地域貢献活動を再開する。
 - ⑦ 緊急、困難ケースの受け入れを可能な限り行う。
 - ⑧ 事業継続計画の策定を行う。
 - ⑨ 安定的な収入を確保する。
- を大きな目標として進めてきた。

- ① については、生活相談員、介護職員、看護職員、管理栄養士、調理職員含め、全職種が専門分野の外部研修に参加し、知識や技術の習得を行うと共に事業所内に情報の共有や水平展開に努めた。
- ② については、9月度に短期入所利用者7名、職員5名の計12名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、新規利用者の受入制限、利用者の隔離対応や職員不足による職種間や部署間の連携、介護職員の配置転換や業務調整等を行ったものの終息までに約2週間を要した。
- ③ については、重大アクシデント件数の比較として2022年度が3件、2023年度が5件となった。2023年度の内訳としては「利用者の全身状態の急激な悪化による救急搬送」が1件、「職員の介助による事故」が1件、「利用者の食事時の窒息による事故」が1件、「利用者の歩行時の転倒による事故」が2件となった。
- ④ については、介護ロボット等の展示会や講習会、研修会に参加し、試験的にデモ機を一定期間使用、効果確認を行ったうえで導入する介護ロボットの選定を行った。また、施設全体のICT環境も補助金を利用し整え2月末に全居室（39床）に見守りシステム（離床センサー、カメラ機能など）の導入を完了した。
- ⑤ については、月行事や定期イベント以外に小グループに分かれ、全ご利用者を対象に外出や外食支援を行った。また、家族に向けては利用者との面会を1年間通して継続的に行い、施設職員から家族へ利用者の様子や病状等を記した手紙と施設での様子を撮影した写真を毎月欠かさず送付したことで沢山の「喜びの声」を頂いた。
- ⑥ については、地域貢献事業を2回実施した。1つは、浦小学校の2年生が生活科の授業（町探検で素敵な場所の秘密を調べる）として職員と意見交換を行い、もう一つは学習小学校4年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を淡路市職員と共同で行った。
- ⑦ については、新規長期入居者7名、新規短期入所者20名を受け入れた。また、受け入れた利用者の中には独居や身寄りの無い方、認知症状の進行により在宅での生活が困難な方、また医療面においてバルーンカテーテル留置、インスリン注射が必要な方（他施設では受け入れ困難な方）の受け入れも行った。
- ⑧ については、専門の講師を招いて施設内で勉強会を開催し、また外部研修にも参加した上で2月度に感染症と自然災害発生した際の計画書を策定した。
- ⑨ については、「総稼働率98.0%以上」については、9月度にコロナウイルスの集団感染や利用者の入院等が相次いだ時期もあったため、数値的な目標は達成できなかったが、介護報酬の収入については前年度に引き続き、予算以上の成果を得ることが出来た。

来年度への課題及び展望

これまで、長年にわたり施設運営やサービスの提供に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症については、減少傾向ではあるが兵庫県内や淡路島内、周辺地域でも終息までには至っていないため、来年度も引き続き感染予防や早期発見、適切な対応に努めていきたい。

また、利用者と家族の面会制限の緩和や利用者の外出支援、地域住民やボランティア団体との連携や活動などもこれまで以上に積極的に行っていきたい。その中で非常災害時や感染症発生時の業務継続計画に係る研修や訓練などにおいては、関係機関や民生委員、町内会長にも参加を促し、相互協力体制を構築できるよう計画を進めていきます。

施設運営については、『介護報酬改定』により「協力医療機関との連携の強化」、「感染症への対応強化」、「高齢者虐待防止の推進」、「認知症ケアの推進」、「口腔衛生管理の強化」「LIFE 関連加算の充実」「介護ロボットやICT等の活用促進」が大きな改定事項となっているため、その背景や情勢などの情報を的確に理解し、より良いサービスの提供やCS・ESの向上と利用者の更なる獲得に繋げていきます。特に「介護ロボットやICT等の活用促進」においては、見守りセンサー等の介護機器を効果的に運用し「先進的介護の実現」を目標に掲げて取り組んでいきます。

また、今後も施設運営に係る光熱費や人件費、物品等の価格上昇で支出が増加し続けていく見通しであるため、日々の業務の中での節電や節約の徹底と消耗品等の購入物品や食材料費などの見直しや代替品への変更など経費削減への取り組みも強化させていただきます。これからも利用者や家族、地域住民、関係機関から選ばれ、信頼と信用を得られる施設運営を目指してまいります。

2023年度 千鳥会デイサービスセンターほほえみ 事業報告書

1. 総括

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策は継続しながらもデイサービスの活動の幅が広がりました。兼ねてからの課題である、ほほえみデイサービスの特徴とは、外部の方の声がたくさん届いた2023年度。「活動・行事の充実」・「心を元気にしてくれるデイサービス」。何をすることも心が元気でないとできない。“やる気”を育て、元気であることを喜び合えるデイサービス。これが、ほほえみデイサービスの特徴です。

1 稼働率85%を目指して、実践したこと。

① ご利用者の社会参加の場とする。

- 1) 安心して自分らしく過ごせる場の提供 他のご利用者との関係性を考え、楽しく過ごせる席をご準備。
- 2) 社会的孤独感の解消 固有名詞で個々に話しかけ、役割が持てる居場所や活動を提供。

② 自立支援

1) ご家族や主治医・ケアマネジャーとの連携

在宅生活で困難になってきたことや、病状の変化等、気づいた事を、その都度連絡し合い、在宅生活を支援する。

2) 生活機能訓練 口腔体操やケア・いきいき100才体操・歩行練習(歩こう会)・マッサージ等

歩こう会や、マッサージを実践し、主治医の先生から、「むくみが軽減してるから続けなさい。」・「階段が上がるようになった。血行が良くなった。」等々の声があり、身体機能の向上が見られる。

3) ご家族との連携を図り、相談窓口となる。

③ QOLの向上

1) 孤独になりがちな環境の改善や引きこもりを予防し、趣味や経験を活かし活躍できる場を提供することでやる気を育て、QOLの向上に繋げる。

2) 集団活動への参加が楽しみになるように職員が支援する。

④ ご家族の負担減少

1) 身体機能の維持・向上、認知症の進行予防に努め、ご家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

2) 栄養バランスの取れた食事の提供・入浴介助・配食サービスを利用し、ご家族が遠方に入る方やお勤めされている方、老々介護の方等が、安心していただけるように相談窓口を広げ対応している。

*2023年度6月実施 顧客満足度アンケートご家族より

「独居の母ですが、温かいサポートにより一人の生活が支えられている事を心から感謝しております。」

2023年度は、目指せ120才!を、合言葉に、ご利用者と職員が一丸となって活動を楽しんだ1年でした。新規ご利用者に至っては、ほほえみデイ指名や、ご利用者の紹介等が多数あったことが今年度の風潮です。2023年度の平均稼働率78.1% (昨年比2.6%) 新規ご利用者も増え、週平均が30名を超えることもあり安定していましたが、直接感染症による影響ではなく、間接的に9月・12月・1月の3ヶ月、北淡荘(特定)利用が半減した事と、転倒による骨折や心不全等の急な入院が、稼働率低下の要因となりました。また、収入面においても平均介護度が低下しとこともあり、当初目標予算には及ばない結果となりました。

職場環境の改善については、物理的環境や仕事の負荷も含め、安全を配慮した快適な職場環境を目指し前向きに取り組んでいます。サービス面では、介護技術やサービスの質の向上を図り2名が介護福祉士に挑戦し、広報では、毎月SNSや、会報誌を用いてデイでの生活の様子や活動を発信、また、年2回のアンケート調査を実施し、サービスの向上に繋げています。

来年度への課題及び展望

2024年度は、ほほえみデイサービスの特徴といえる、「コミュニティーの構築」から得られる効果を最大限に生かしていきます。送迎時やフロア内での座席を検討し、デイサービス内でコミュニティーを形成することで、利用者同士や職員と利用者の信頼関係が生まれ、心身ともに安心できる空間が作られる。また、コミュニティーを通じて、利用者の交流が促進され、孤立感の軽減や社

会参加、自己実現を支援することができる。さらに、スタッフと利用者の間でのコミュニケーションが円滑になることで、利用者のニーズに適したサービスの提供や活動の支援、又、参加率の向上となり、デイサービスが提供するサービスの品質の向上と、住み慣れた地域での生活の維持に繋げ、ご利用者やご家族、居宅事業所、地域の方々に選ばれるデイサービスを目指します。

「中重度者ケア体制加算」の、取得対象外となり、収入が減少するにあたり新たな取り組みが必要になります。今年度の課題として、“稼働率の向上と安定化”を図り、目標達成に向けて必要なことは取り入れたいと思います。BCP計画における感染対策・自然災害対策について不測の事態が発生した時に、利用者の安全や生活をどのように守っていくのか、事業所としてどのような対応をするのか普段から検討し非常時に備えていきます。

2023 年度 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ 事業報告書

1. 総括

2023 年度は、4 月の利用登録者実績が 23 名からのスタートとなり、年間での平均利用登録者数は 24 名程度と、2022 年度の 27 名程度から大きく利用実績が低下してしまいました。新規登録者数は昨年度の 3 名から 9 名と増えていますが、入院や利用終了が大きく影響した事が実績低下の要因となっています。昨年度に引き続き、登録ご利用者だけでなく、外部ショートステイご利用者の受け入れも実施し、空きベッドの活用に取り組みました。また、淡路市からの緊急の対応依頼に対しても、登録ご利用者へ影響がないよう、泊り通い定員を超えて迅速・柔軟に対応しました。2023 年度の取り組みとしては、5 月に新型コロナ感染症が 5 類に移行したこともあり、事業所内だけでなく地域行事への参加や外出行事の開催をテーマとしました。地域行事では、地元久留麻神社の春祭りや節分祭、淡路市敬老会に参加しました。外出行事では 4 月には 4 年ぶりのお弁当持参でのお花見会や、お店での外食を含めた紫陽花、紅葉見学、元旦の初詣等を開催しました。一泊旅行についても秋頃の開催を検討していましたが、感染状況拡大の影響により中止することとなりました。久しぶりの地域行事への参加や、外食等の中でご利用者の皆様の笑顔を多く見ることが出来ました。

感染状況については、ご利用者、職員の感染があっても、事業所内での感染拡大に至らない状況が続いていましたが、1 月に職員の新型コロナウイルス感染から、ご利用者 3 名と他職員 1 名の感染がありました。陽性者への対応について、自宅療養中の訪問対応、事業所内での療養対応と、初めての事でしたが感染 BCP に基づいた対応を行い、大きな感染拡大に繋がらず療養期間を終える事が出来ました。

職員状況としては、5 月に 1 名入職、12 月より復職 1 名あり、継続していた人員不足が解消され適切な人員配置を行う事が出来ています。申し送りや部署会議等、情報の伝達と共有を円滑に行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。職員教育の面では、2021 年度の介護報酬改定で定められた研修の受講はオンライン研修にて終える事が出来ました。また、事業所、部署内勉強会を実施しましたが、各職員の外部研修参加は出来ておらず、来年度への課題となっています。

来年度への課題及び展望

2024 年度は、介護報酬改定があり基本単位数は微増となりますが、新規加算の設定により現行の加算が減算、報酬全体ではマイナスになる見込みです。新規加算を算定出来るよう対応し、報酬全体でプラスとなるよう対応していきたいと考えています。新規利用調整に加え、事業所の機能を活用して緊急・困難ケースの受け入れを行い、2023 年度以上の実績を目指し安定した運営に努めます。また、職員のスキルアップとケアの向上を図り、ご利用者・ご家族に満足していただけるサービスを提供し、在宅生活を支える力となるよう取り組みたいと考えています。

LEVN

2023 年度 小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり 事業報告書

1. 総括

2023 年 2 月に移転し、新年度を迎え 6 月に管理者変更し新体制で業務改善・改革に取り組みました。管理者はもちろん職員も環境が変わったことに戸惑い思うようにいかないこともありましたが、職員一丸となり取り組み業務の効率アップやペーパーレス化を行うことが出来ました。外部会議等にも積極的に出席し、ぬくもりの PR を行い短期利用や困難ケースも積極的に受け入れ、利用者の確保に向けた取り組みを行ってきました。4 月に 13 名であった登録者数も毎月新規獲得に努め、3 月には 24 名と登録者数を伸ばすことができました。

引き続き今年度も感染拡大予防に努めながらコロナ禍で 3 年間参加できていなかった津名福祉祭りに参加するなど外出も多く取り入れました。また、定期的に、ちびっこランドの園児やグループホーム RAVIE のご利用者の方との交流行事も行いました。

また、日々感染対策に努め、施設内での感染症拡大もなく 2023 年度は終えることが出来ました。

来年度への課題及び展望

2023 年度は業務改善・改革に力を入れていたことや感染対策もあり地域との交流ができておらず来年度は地域に出向き交流やご利用者が地域で住み続けられるよう地域の支援者との関係作りに努めていきたいと思っています。

また来年度も引き続き新規獲得に努め安定した運営が行えるよう、経費削減や、収益確保、業務改善に努め効率アップ、職員が働きやすい環境作りに、取り組んで参りたいと思っています。

2023 年度 千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所） 事業報告書

1. 総括

担当件数について、昨年度末 127 件からスタートし今年度は 112 件で終了した。年間プラン件数も一昨年度は 1580 件に対し 1486 件と大幅に減少した。また、実質新規利用者数は 4 月から順に 7、6、3、1、1、2、3、2、4、7、1、2 件であり、年総数 39 件・月平均 3.25 件であった。これらも昨年よりも少ないという実態であった。これらの結果について、上期の体制変更時と多数新規依頼期が重なり事業所全体でオーバーワークを懸念して新規の受け入れを 5 月～6 月頃一時期抑制したことが原因の一つではと推測される。通例では 9 月辺りまでは上昇傾向のある動きが今年度は発生せず、結果全体の減少につながったのではないかと考えられる。入院件数による影響も考えられたが 4 月から順に 4、3、7、5、8、7、4、8、3、6、6、4 件であり、翌月等への件数との連動性はあまり無いものであった。以上の事から新規獲得に少しでも抑制をかけると直ちにマイナス影響が出るということが分かった。

終了ケースについてはデータを取っておらず、正確な分析ができない状況であるが、依然として流出は続いているため件数減少の一因となっており、今後も対策する必要がある。

来年度への課題及び展望

来年度の展望について、高齢者人口は増加が続く予定にもかかわらず介護保険料は据え置かれていることから市の新規申請者の抑制する傾向は継続すると予測される。そのため新規利用者数は限られており、これまで通り PR および流出の可及的な回避は継続すべき課題であると考えられる。

PR に関しては、これまでの「自立を志向したケアマネジメントを目指し軽度化ないし自立化する結果を出す」取り組みに加え、「地域ケア会議等公の場で積極的発言」などでの PR を継続しつつも、地域へ入っていったの PR もより積極的に行っていく必要がある。ケアマネジメントを行う中で地域の方々と関わることや地域の方も関わる活動に職員が参画していくといった手法が挙げられる。それらを励行、実施していくことにより地域での在宅介護支援センターの認知度が拡がると期待できる。

流出の抑制に関しては、在宅生活継続のため事業所内で諮ることが浸透してきており、代わりに変更申請等で重度化することも増えてきているものの在宅を継続できているケースも出始めており、今年度も継続する方針である。

2023 年度 千鳥会在宅介護支援センター 事業報告書

1. 総括

コロナウイルスが 5 類に移行し、地域が少しずつ活気づき、新しい活動にも繋がる 1 年であった。毎月の訪問件数に上下があるものの、最終的には満額の予算達成に至った。10 月には室津地域にて在介訪問から地域のニーズをつかみ、100 歳体操の新規会場の立ち上げに至った。立ち上げの過程で民生委員、老人会、町内会他各組織とつながり、協力し、それぞれの組織との関係性も深まった。現在でも 20 人前後が通う淡路市でも有数の大規模な会場として評価されている。

今年度の新しい取り組みとしては、毎月の津名ケア会議、北淡ケア会議にて構成員の主体として司会進行を行っている。地域ケアシステムの構築に向け、新しい資源の開発を検討したり、専門性を深める勉強会を行ったりし、意見をまとめる中で居宅を含め、千鳥会在宅介護支援センターの存在感が強くなっている。

他、積極的に地域の会議に等に出席し、千鳥会の取り組みや魅力、地域で担える部分の情報発信を行った。認知症サポーター養成講座について 3 件の依頼があり、行う事ができた。

社会福祉協議会より、地域の福祉学習への応援依頼があり、志筑小学校、大町小学校の講師として参加した。

来年度への課題及び展望

来年度も、淡路市との委託契約の内容を基に訪問活動を行う中で地域ニーズを把握し、地域ケア会議等で専門職や組織、機関と協議し、地域づくりができるように活動を続ける。引き続き、津名ケア会議、北淡地域ケア会議では、主体であり、司会進行を行っていく事となるので会議が円滑、スムーズかつ実りのある会議となる様に努めつつ、千鳥会の PR につなげる。また認知症サポーター養成講座他、地域応援活動を積極的に行い、福祉の魅力や理解につながる様に活動していく。また、在宅訪問のつながりから、千鳥会のサービスが選ばれる様に信頼関係を築いていく。

2023 年度 家族介護者教室・家族介護者交流事業 事業報告書

1. 総括

家族介護者交流事業については聖隷在宅介護支援センターと合同で企画。一般含め 15 名の参加者。内 8 名が現役介護者として参加。映画の内容、その後の座談会で介護者のリフレッシュや交流につながった。介護者教室について平均 5 名程の参加者。施設見学では 8 名の参加があり施設への関心の高さが伺えた。

来年度への課題及び展望

家族介護者交流事業、家族介護者教室ともに参加者が増える様に魅力的な企画を行っていく。

2023 年度 ちびっこランドぬくもり 事業報告書

1. 総括

2023 年 2 月に千鳥会としては 2 つ目の保育事業所「ちびっこランドぬくもり」を開設、新しい地域でのスタートを切りました。3

名の園児の入所に始まり、4月には定員6名のマックスの6名の入所があり、そのほか一時預かりの園児の受け入れを積極的に行いました。保育指針をもとに、年齢別年間保育計画、自由あそびと集団活動の設定保育時間をバランスよくもりこみ、発達過程や個々の個性に配慮した月間保育計画を作成し、異年齢児が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。異年齢の子ども達と一緒に過ごし自由に遊ぶ中で、小さい子への思いやりの心も芽生えました。

行事に関しては、季節に応じた行事計画を作成・実施、感染状況を見ながらですが、小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもりのご利用者、グループホーム RAVIE のご利用者の方との交流行事にも参加し、子どもたちにとってかけがえのない経験をすることができ、個々の成長に繋げることができました。

感染症に関してですが、感染予防を徹底しておりましたが、12月にインフルエンザA型の集団感染が発生しました。幸い、職員は一人の感染者もでませんでした。改めて乳幼児の感染拡大の速さに職員一同痛感し、感染予防対策の再確認を行いました。

近年様々な保育事情が話題となっています。職員間で保育の見直しを行い、全職員で問題解決に向けて話し合い、その子にあった保育の提供を心掛けています。保護者や保育者と密な情報交換を行い子ども達の環境づくりに努め地域における子育てニーズを把握し、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と保育環境や保育機能また、保育内容の充実に図り計画、実施していきたいと思っております。

来年度への課題及び展望

年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心して、安定した生活が保障され充実した毎日を送れるよう、就労支援と育児支援の両方の社会的相互効果を深める保育計画を立案し実施してまいります。保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実に図りながら、一時保育や土日保育など、地域のニーズに対応した保育を行います。

四季を肌で感じる様々な遊びや行事を計画し、実際になんでも経験し、実感できる保育を実施してまいります。感染状況を見ながら、地域・併設事業所等の交流行事も検討してまいります。

災害に備え、園児・職員の安全を第一として様々な場面を想定した災害時訓練の実施と園内外の設備等の安全確認を実施します。

2023年度 グループホーム RAVIE 事業報告書

1. 総括

2023年4月に開所し、事業開始となりました。最初は、ご利用者の確保が思うようにいかず、自立支援協議会や役所、相談支援事業所に行き、RAVIEの存在を知ってもらい、利用者の確保に向けた取り組みを行ってまいりました。そして、9月に定員5名を確保することが出来ました。また、稼働率の向上に向け、祝日や土日などにイベントを開催し、RAVIEを利用していただけるよう、取り組みを行ってまいりました。

ご利用者に関しまして、一年通して、ご利用者との信頼関係を築けるように努めました。ご利用者それぞれの生活に合わせ、個々に合わせ支援を続けることが出来ました。入所時に出来なかったことが、出来るようになり、ご利用者の成長を感じました。

来年度への課題及び展望

収支のバランスが悪いので、安定した運営が行えるよう経費削減や収益確保に取り組んで参りたいと思っております。ご利用者が安心して、楽しくRAVIEを利用していただけることで、RAVIEで過ごしたいと思っただけけるよう、今後も、ご利用者に寄り添ったサービスの提供を進めていきたいと思っております。来年度も、ご利用者に合わせた支援をしつつ、共同生活をより良く過ごせるよう心掛けます。一人業務の為、他職員との連絡・伝達を密に行い、業務内容に偏りのないよう努めます。

2023年度 グループホームしおさい・しおさいデイサービスセンター 事業報告書

1. 総括

2023年度は長らく続いた新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行し、新たな生活様式もとの事業運営となりました。の蔓延が続きなかの事業所運営となりました。ご利用者との生活において、以前の日常を取り戻す取り組みを行いながらも、第9波、第10波と感染拡大もみられるなか、引き続き感染予防が求められる日々が続きました。以前の日常を取り戻す取り組みにつきましては、家族との面会交流については、感染拡大の有無や程度に関わらず、必ず直接顔を合わせてもらえるよう天候をみながら、敷地内屋外ベンチや玄関ホールを面会スペースとして提供。健康チェックに協力も得て、互いの感染予防のもと家族や友人同士の時間を持ってもらいました。月平均でも30組以上の面会者が訪れています。また住民や社会福祉協議会主体の地域の行事の場に参加、地域に出向くことも再開しています。

トライやるウィークにあたり感染予防のもと中学生の実習受け入れ、オンラインを活かしたこども園との運動会交流など、コロナ禍以前と以後の事業所としてツールを増やしたあらたな関係機関との交流のかたちも見出しています。メリハリの効いた対応により、感染予防とコロナ禍での日常のケアを両立してまいりましたが、12月に利用者1名と職員2名が新型コロナウイルスに感染。事業所内で初めて利用者が療養、感染対応することとなりました。以前の法人内外の事業所の感染対応の経験をもとに、事業所設備や比較的ADLが保たれた認知症利用者への対応など、事業所の特性も考慮した事業所の想定通りの対応ができ、結果感染対応期間も9日間で終息させることができました。

事業所運営につきましては、入居者の高齢化重度化に伴い、入院療養も相次ぎましたが、共用型デイサービスや空床・緊急ショートステイにて地域の認知症利用者へ支援依頼も多数あり、入居層稼働率も98%程度を維持、共用型デイ（定員3名）も1日2名程度の利用者への支援を行い、安定した事業運営のもと実績を積み重ねることができました。

来年度への課題及び展望

2024年度は事業所開設20年を迎えます。開設以来、従事する職員も多数在籍するなど、職員の高年齢化も顕著となってきました。日々の介護業務が身体的な過度な負担にならないよう、事業所設備の改善を行い、長らくの事業所の経験や特殊なスキルを活かして、職員ひとりひとりが長く活躍できる事業所づくりにも取り組みを深めていきます。地域に向けては、引き続き旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として更に機能していくことが責務ともいえます。それに応えながら、地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出し、新たなグループホームしおさいのカタチを確立していきたいと考えています。

2023年度 佐野デイサービスセンター 事業報告書

1. 総括

今年度の稼働率の平均は75.1%（前年度比較+7.1%）。延べ利用者数5756人（+632人）。新規利用者数35名（+18名）となっており、利用者確保、収益確保ができました。年度初めに職員の異動・退職もありましたが、残った職員で力を合わせ、業務改善、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、デイサービスとしてのサービスの維持ができました。事故・アクシデントについてはリスクマネジメントを行う事で、大きなクレームや事故に繋がる事もなく対応ができました。年度終わり3月に職員によるコロナ感染があり、マンパワー低下による4日間の臨時休業を余儀なくされました。ご利用者への感染は見られませんでした。今後このようなことがないように一層の感染予防対策に努めたいと思っています。職員が不足したことにより外部へ発信するような行事を行うことができませんでしたが、出来る範囲の中で利用者満足度を向上させる取り組みはできました。

来年度への課題及び展望

2024年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上する事で、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い安心・安全な運営に努めたい。

2023年度 ちびっこランドちどり事業報告書

1. 総括

今年度は、コロナが5類に移行したことで、少しずつ今までの日常が戻ってきましたが、子どもたちに安心・安全な保育を提供できるよう、これまでのように、マスクの装着・手洗い・消毒・換気など感染対策を考え、日々過ごしてまいりました。

行事計画では、前年度までは保護者の方に参加して頂く事が出来なかった納涼祭・祖父母参観など、保護者の方に参加して頂き行うことが出来ました。ほほえみの利用者の方々とも、納涼祭・節分会などの行事を通し、交流する事が出来ました。これらの行事を通し、子ども達・保護者の方、利用の方のたくさんの笑顔を見ることができ、行事ができたことの喜びを職員一同感じ、次への意欲となりました。

食育活動では、1年を通じ、園の畑で夏野菜の栽培や、秋にはさつま芋の収穫をし、冬には大根も収穫しました。大根を使い、大根もちを調理して食べ、子ども達もとても喜んでいました。種や苗を植え、水をやり、野菜が大きくなる過程を観察し、育った野菜を収穫し、収穫した野菜を調理して食べるという一連の経験は、子ども達にとって貴重な経験になったことと思います。

保護者に対する支援では、子育ての悩みに共感し、助言をし、一人ひとり向き合うようにしました。また、SNSを活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに務めました。保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、大きな混乱もなく子どもたちが安心して園生活を送り、無事に一年を終えることが出来ました。今後もより良い保育を提供し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し、努力していきたいと思っています。

来年度への課題及び展望

保育園で過ごす乳幼児期は、子どもの将来の性格を形成していくうえで、とても重要な時期です。そんな大切な時期を過ごす園生活の中で、私たち保育士は子ども達の気持ちに寄り添い、しっかり受け止め、安定した生活を送ることができるよう関わっていきたくと思っています。またSNSを有効活用し、園の様子や行事を公開し、子ども達の成長を伝えていきたいと思っています。また、土日保育、一時保育など、地域の方のニーズに対応した保育環境を整え、子ども達・保護者の皆様・職員が、みな笑顔で楽しく過ごすことのできる保育園を目指し、日々努力していきたいと思っています。

2023年度 千鳥会福祉用具貸与事業所 事業報告書

1. 総括・来年度への課題及び展望

高齢者や障害者をサポートし、介護する方の負担を軽減することも目指し、今年度も北淡荘の利用者を中心に福祉用具の貸与を年間122件行いました。

利用して頂く事で、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な用具を選び援助していきたいと思っています。